

佐那河内中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

<b>学力向上推進員</b> 豊栖 牧 (英語主任)	<b>委員</b> 校長:倉橋 誠一 教頭:武知 一誠 教務:1学年主任・数学主任: 堀岡暁美 2学年主任:竹内正行 3学年主任・研修主任:長楽真裕美 国語主任:吉川奈央 生徒指導主任:高橋理駆
----------------------------------	--

校長

倉橋 誠一



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校生活は落ち着いており、授業も真面目に取り組むことができている。提出物はほとんどの生徒が提出できている。 ●家庭学習が不十分のため定着が不十分である。	・自ら課題を設定したり、仲間と協働したりしながら、課題解決や探究に取り組むことができる。 ・宿題に時間をかけて丁寧に取り組むとともに、タブレットドリルや自主学習ノート等を活用して復習し、知識技能を身に付けることができる。 ・読書に慣れ親しみ、言語活動の基礎となる言語能力を高め、日常生活の中で活用することができる。	・授業中の発問等を工夫して、生徒達を夢中にさせる授業展開を考える。 ・休み時間や放課後等に「質問教室」を開催することで、生徒が気軽に質問することができる場を設ける。 ・タブレットや教材を有効活用する。 ・「学習の手引き」などを活用し、家庭との連携をはかる。	・ミライシード(タブレット学習)の宿題を取り入れ、家庭学習を充実させる。 ・習熟度に応じて個別指導に対応し、生徒の学力向上の機会を増やす。 ・個別に声かけをし、質問しやすい雰囲気をつくる。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア学習やグループ学習を取り入れ、効果的に学習している。聞く態度がよく身につけている。 ●記述式の問題を苦手とする生徒が多い。	・タブレットを活用し、必要な資料を集めたり、関連する情報を集めたりして考えを比較し、整理し、自分の考えをまとめることができる。 ・記述式の問題に対して、伝えたいことや考えを整理して分かりやすく書くことができる。	・発問を工夫し、生徒が主体的に考え、判断し、表現するような授業づくりに取り組む。 ・プレゼンテーション等をする機会を設け、調べたり、自分の考えをまとめ発表したりする時間を増やす。 ・授業や定期テストで記述問題を出題し、粘り強く取り組む姿勢を身につけさせる。	・授業の中で、意見交換をしたり、相談し合える時間をつくる。 ・限られた時間内で自分の考えをまとめて発表(表現)する機会を増やす。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○英検取得に対する意欲をもつ生徒が増え、昼休みや放課後にも学習している。 ●学習に積極的であるが、結果がついてこない。 ●テスト前における家庭学習の時間にはらつきが見られる。	・英検の受験率 80%以上である。 ・自分の課題を自ら見つけ、目標を定め、計画や見通しを立てて学習等に取り組むことができる。 ・自分に合った学習計画や学習の仕方を工夫することができる。	・昼休みや放課後に、英検対策教室を設ける。 ・タブレットドリル等を活用し、生徒個々のレベルに応じた教材に取り組ませる。 ・自主勉ノートやエラーズノートを活用することで、生徒が自ら学ぶ姿勢を育てていく。	・テスト前だけでなく、普段から昼休みや放課後に質問にしやすい状況をつくる。 ・ミライシード等を活用し、生徒が自らの疑問や課題を確認できる機会を増やす。 ・タブレットドリルを朝の学習で実施する。 ・タブレットを活用して家庭学習の定着。		

令和6年度 学力向上ロードマップ

